

いのちを考える市民講座

2014年12月21日(日)

- 「看ます。生きます。この街で。」プロジェクトで開催いたしました市民講座は、300名近くの方の参加を頂き、盛況のうちに終了いたしました。

フォトジャーナリストの國森康弘さんの講演では、多くの温かい看取りの物語を聴くことができました。

いのちを考えるシンポジウムでは、地域包括ケアシステムから在宅療養について、自分や身近な人の最期の時について他人事ではなく自分のこととして考える機会を持つことができ、会場との意見交換も活発に行われました。

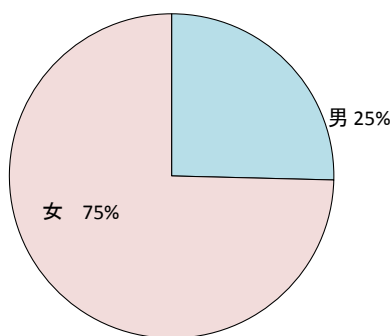
■ アンケートの感想より…

介護のことや高齢化社会の関わりなどに考えるきっかけとなりました。みどりびとには感動いたしました。
國森さんのスライドは、心に残りました。家で最期を過ごせる体制がますます増えると良いです。
自然に生きて、自然に亡くなっていくことが出来ればよいと思います。
人生の過ごし方の尊さや大切さを改めて教えて下さりました。
こんなに心を揺さぶる素晴らしい企画をなされた皆様に厚くお礼申し上げます。
継続して開催してください。
生きる意味、命の尊さがうすれてきている現代だから一人でも多くの方が感じられる良い機会でした。
市民に、柔らかく、また納得いくように覚悟をもって生き方・死に方を考えるよう促すいい機会でした。
感動的でした。心に残り、温かい気持ちが残っています。シンポジウムもとてもよかったと思います。
写真の中でとても穏やかな表情で、最期を過ごされていたのが印象的でした。
地域の中で、自分の家で、最期を過ごせたらと思いました。

■ 性別を教えてください。

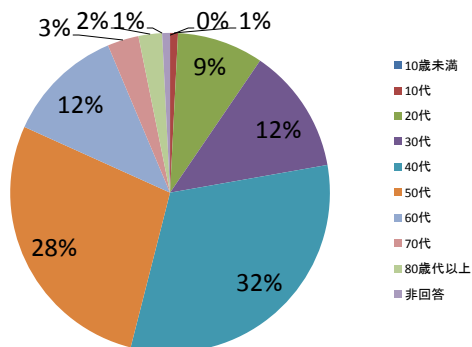
参加者男女比

男	32 人
女	94 人



■ あなたの年齢を教えてください。

参加者年齢比

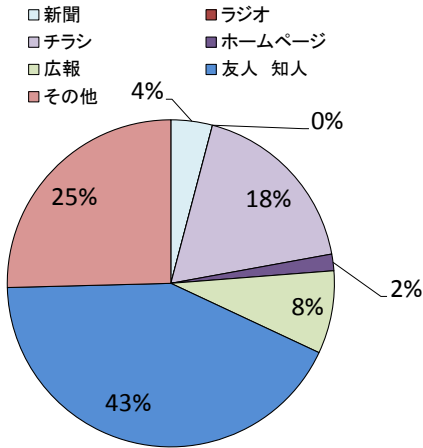


年齢	人数
10歳未満	0
10代	1
20代	11
30代	16
40代	40
50代	35
60代	15
70代	4
80歳代以上	3
非回答	1

■どこで、この市民講座を知りましたか？(複数回答可)

	新聞	ラジオ	チラシ	ホームページ	広報	友人 知人	その他
人	5	0	22	2	10	52	31

参加のきっかけ



その他の回答

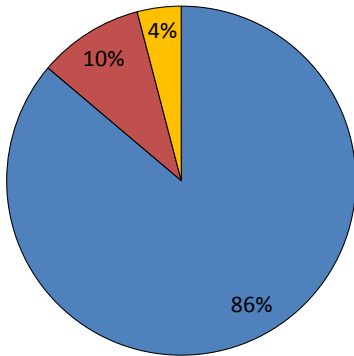
- ・ケアマネージャーより
- ・はーとの家
- ・主催者から
- ・大学の講義で
- ・かかりつけの病院から
- ・訪問看護部会から
- ・職場で
- ・ホスピスナース研修会
- ・農文協より
- ・看護財団新聞
- ・訪問看護師から
- ・日本看護協会の新聞
- ・わたクリニック
- ・FAXで

■開催日時は妥当でしたか？

	そう思う	そう思わない	その他
人	106	12	5

日程の満足度

■ そう思う ■ そう思わない ■ その他



その他の回答

- ・11月が良い
- ・秋ごろが良い
- ・12月の日程を開けるのが難しい
- ・もう少し早めの時間帯
- ・12月ではないほうが良い

■今回の講座は満足できましたか？

	満足できた	まあまあ、できた	できなかった
人	102	16	1

